















記憶する、わたしたちだけのアート

REMEMBERING, AN ART OF OUR OWN

PERFORMANCE ART & PUBLIC PRACTICE

パフォーマンス・アート｜公開実践プロジェクト

（一橋大学社会学部 2026 年度「海外短期調査（韓国）」成果発表会）

主催・企画｜一橋大学社会学部 加藤圭木研究室有志＋岡本羽衣

アーティスティック・ディレクター｜岡本羽衣

2026 年 12 月 6 日（日）13:00–16:30

※ご都合に合わせて、途中からのご来場や途中退場も可能でございます。

会場 __ 一橋大学 国立キャンパス（JR 中央線「国立駅」南口より徒歩約 10 分）

参加費 __ 無料（事前申込制）

申込締切 __2026 年 12 月 5 日（土）23:59 まで

お申し込み __Peatix イベントページ (右の QR コード) よりお申し込みください。

Peatix URL__https://memoryartpjt.peatix.com

■ プログラム

13:00 学生個人パフォーマンス

14:00 岡本羽衣 パフォーマンス

15:00 共同パフォーマンス《海辺》

15:45 学生による 8 日間の「韓国短期調査」に関するプレゼン発表

16:30 終了（予定）

■ 企画趣旨

2026 年 8 月、一橋大学社会学部加藤圭木研究室の学生たちは、アーティストの岡本羽衣さんとともに韓国（仁川、全州、天安、華城、烏山、ソウルなど）を訪れ、「日韓」の歴史に関わるさまざまな場所を歩きました。歴史の現場に立ち、現地で活動する方々の話を聞きながら、「過去の歴史といまの自分たちはどのようにつながっているのか」「歴史をどのように記憶し、社会へ伝えていくことができるのか」を考え、言葉だけでなく身体を動かして表現することに挑戦しています。歴史学を学ぶ学生とアーティストが一緒に歴史と向き合ったとき、どのような表現が生まれるのか。本を「読む」ことや現場を「歩く」ことから一歩進み、「日韓」の歴史について考える新しい入り口をつくる試みです。ぜひ会場で、私たちが表現する「わたしたちだけのアート」に立ち会っていただけたら嬉しいです。

■ アーティスティック・ディレクター / 岡本 羽衣（おかもと はごろも）

パフォーマンスを軸に、絵画、映像、インスタレーションを扱う。歴史的な出来事や場所に残された痕跡を手がかりに、過去の出来事が現在の身体や認識にどのように関わり続けているのかを探っている。パフォーマンスでは、身体の持続と負荷、行為と行為のあいだに生じる「間」に着目し、その過程で生じる変化や、完全には制御できない身体の状態を即興的に扱っている。東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。近年の主な個展に「Qualitative Evidence」（STANDING PINE、東京、2027 年 1 月予定）、「In Denial」（TOH Gallery、東京、2024）、「腹から出た肝臓」（District_P、釜山、2024）、「That’ s that」（CLEAR GALLERY TOKYO、東京、2022）。新作能「望恨歌」（東京／ソウル、2025）や「沖縄残月記」（東京／那覇、2025）などの舞台美術も担当。

― 本プロジェクトに寄せて ―

数回にわたるワークショップを通じて、学生たちが初めてパフォーマンスに取り組む姿に、強く心を動かされました。学生たちは、一番身近な身体（からだ）という媒体を主軸に、短期調査で現地の人々から聞いた話や、自ら見たことを記憶し、加害の歴史に向き合う思考と実践を重ねてきました。歴史を学ぶことと身体による表現を往復するなかで、現在の私たちの歴史認識や、自分自身への問いが生まれる。学生たちとの取り組みを通じて、歴史学とアートが新たに協働し、さらに両者の境界を越えていく可能性を感じています。学生たちが何を受け取り、どのように表現しようとしているのか。ぜひ会場で立ち会っていただけたら嬉しいです。

■ ご参加にあたってのお願い

学生やアーティストの安全・人権・プライバシー保護のため、事前申込制としております（取得した個人情報は本イベントの運営のみに用います）。

開催場所の情報を SNS 等に公開することや、参加者以外の第三者に教えること、許可のない撮影・録画・録音、本企画を妨害する行為は固く禁止いたします。詳細は Peatix 申込ページをご確認ください。